

(博士前期課程) 化学・環境・生命工学専攻【環境工学コース】 アドミッション・ポリシー

研究科・専攻ポリシー

人と自然との共生を基盤に、応用化学や生命工学の知識を加味しながら自然環境・地域環境・社会環境基盤に関する「環境ソリューション分野」の技術の実践に携わることができるよう教育を行う。その中では、学士課程教育の中で培った人間力豊かな技術者としての能力をさらに高めていくことになる。

<求める人物像>

- 専攻および環境工学コースの教育目標を理解し、その実現に対して努力できる人
- 環境に関わるさまざまな知識や技術に対する理解をさらに深めようとする意欲をもつ人
- 化学・環境・生命工学専攻が包含する幅広い技術を融合的に活用し、人類が直面する多方面にわたる課題に立ち向かう意欲を持った人
- 人間的な成長および自己実現をめざす向上心を持ち、共同作業の重要性を認識し実行できる人

入学前に学修しておくことが期待される内容

博士前期課程では、学士課程で学修した専門科目の知識を基点として、さらに周辺学術領域にも学修の視野を広げるとともに、専門分野の知識と思考を深める姿勢が求められる。また、指導教員の助言を受けながら主体的に研究課題に取り組み、研究を遂行するとともに、該当する学術分野において研究成果を発信できる能力も求められる。そのためには、以下に記した能力を身に付けておくことが望まれる。

環境工学の基礎：専門分野の横断的基礎として、「環境量論基礎」、「エネルギー基礎 I」、「反応工学 I」、および「環境化学 I」を理解していることが重要である。

応用分野：「資源・エネルギー」、「都市代謝」、および「自然共生」のいずれかの分野において、研究テーマの背景・目的・実験手法・解析手法など研究推進に必要な基礎力、自ら研究を推進するために必要な目的意識、研究テーマと環境工学との関連を説明できる能力が重要である。

英語：グローバル化が進む中、研究者・技術者として活躍するため、国際人として専門分野の海外文献の活用、コミュニケーションに必要な英語力を身に付けておくことが必要である。

一般入試

選考に関しては、学科試験「環境工学の基礎」および「応用分野(「資源・エネルギー」、「都市代謝」、および「自然共生」から1科目を選択)」を課す。英語に関しては、TOEICの得点で評価する。さらに、書類審査と面接試験の結果で総合的に評価する。

社会人入試

選考に関しては、学科試験は課さず、書類審査と面接試問で総合的に評価する。

外国人留学生入試

選考に関しては、学科試験「環境工学の基礎」を課す。さらに、書類審査と面接試問で総合的に評価する。